

自衛隊の持続的な部隊運用に必要な燃料の確保

- 自衛隊は、**警戒監視、緊急発進（スクランブル）、災害派遣、部隊訓練等の幅広い活動において燃料を使用**しており、**燃料の確保が死活的に重要**。
- 安全保障環境が厳しさを増す中で、**警戒監視やスクランブル等の任務に取り組む必要**。

警戒監視、スクランブル

24時間態勢で航空機、艦船等による警戒監視、戦闘機によるスクランブルを実施



哨戒機による警戒監視

災害派遣

発災後速やかに被災地に展開し、被災者への救援活動を実施



ヘリによる被災者の救出

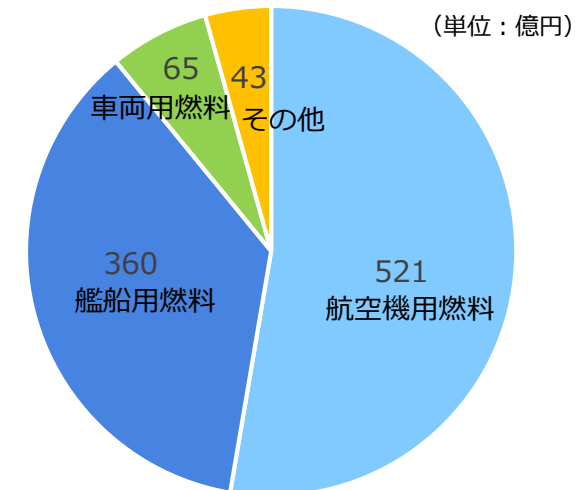
抑止力・対処力強化のための訓練

抑止力・対処力強化のため、各国との共同訓練等を実施



多国間共同訓練

令和4年度燃料費（989億円）の内訳



- 燃料が十分に確保できない場合、わが国を守り抜くことが困難になる。
 - － 不審な船舶や航空機の事前探知及び対処が困難となる等、**迅速な事態対処に影響**
 - － 災害発生時に迅速に被災地に展開できない等、**緊急時の対応に影響**
 - － 各国との共同訓練を含め、部隊訓練を十分に行えないことで、**抑止力・対処力に影響**

原油価格高騰に伴う自衛隊の燃料費不足への対応

- ロシアによるウクライナ侵略以降、原油価格の高騰が続いている中、**自衛隊の部隊運用に必要な燃料の調達価格が大幅に上昇**。昨年度の平均調達価格に比べ、航空機用燃料の調達価格は約 1.8 倍、艦船用燃料の調達価格は約 1.4 倍上昇。
- 調達価格の上昇により、**1 - 2 か月内に予算が不足する見込み**であり、**今月中に予備費（コロナ・物価予備費）を措置しなければ、自衛隊の部隊運用に支障が生じる**。

燃料費調達価格の上昇

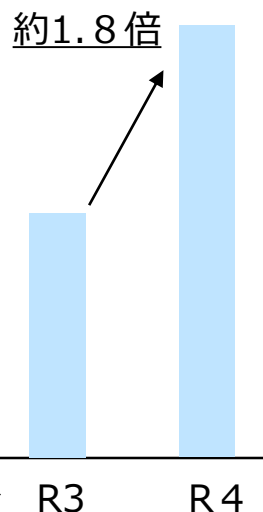
航空機用燃料



戦闘機（F-15）



固定翼哨戒機（P-1）



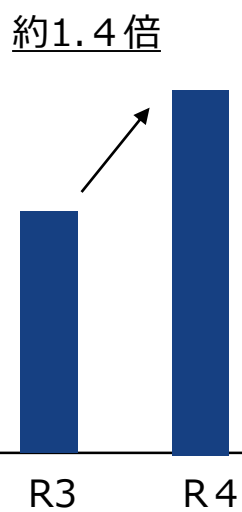
艦船用燃料



護衛艦



潜水艦



燃料費の執行状況（累積）

